

新しい国土づくりに関する京都からの提言

日本には、長い海岸線や深い森林によって造形された美しい風土がある。日本人はこの風土を限りなく敬愛しつつ、それぞれに地域独自の文化を築いてきた。

もとより文化は、生活様式のささやかな美しさから、都市の巨大な建造物まで、広く多様である。しかしひとしく地域風土と密接な関係をもつ。

とくに自然と生命を共有しようとする日本人にあっては、風土は文化をはぐくむばかりか、文化が風土を創造するとさえ、いうことができる。

日本人は、この風土と文化の豊かな相互関係を守りつづけて、歴史を生きてきた。

なかんずく京都は、長く首都としておびただしい日本文化を集積しつづけた。その文化は、深く風土と融け合い、自然まで文化の一部とする稀有な文化風土を形成した。京都周辺の山水を「山紫水明」とよぶ時の「紫」とは、宮廷文化の色合いに他ならない。

京都は自然と人間との默契によって完成した、世界に誇るべき風土である。

東京も起伏の多い地形の上に発達し、その傾斜がもたらす陰翳は、十分に人びとと文化的対話を交わす。大阪もまた、豊かな水路が商業を活性化し、物流の拠点としての独自の都市様式を作り出している。

どの土地も文化を大地から切り離すことはできない。

かつて作家・堀辰雄は、文明と自然とのあり方を次のように語った。

人間は原始の自然の上に文明を築くが、時の推移はこれをことごとく崩壊させ、自然は元に戻ったように見える。しかしそれは、原初の自然とは違う、第二の自然というべきものだ。

大地はこれほどに文明と結ばれつづけると、堀は言うのである。

いま世界は、従来の無秩序な大地の開発を反省し、人間と大地との心の交換を求めようとしている。

その中で日本が新しい国土づくりを展開しようとする時、我々は日本列島に根づく地域文化の、それぞれの様態に深く心をいたし、文化をメルクマールとして計画を進める必要がある。

日本文化と緊密な関係をもつ大地が、それぞれの文化の地域性を明らかにすることによって、日本は、多様な国土の美しさを世界に向けて開示することができるであろう。

新しい国土づくりに関する提案事項

一 新しい国土形成計画の策定に当たっては、文化の果たす役割を十分に踏まえ、文化を産業の振興や地域コミュニティの再生、国際交流の推進などの分野で多面的に位置づけること。

一 新しい国土づくりにおける重要なテーマである地域の自立的な発展のためには、地域ではぐくまれてきた文化を地域の資源として再認識し、これを積極的に活用するよう配慮すること。

一 日本の歴史文化の精華である京都の文化は、世界に誇る国民共通の財産であることに鑑み、国においても、この保存と活用のために特別の配慮を行うこと。

平成十八年八月二十二日

京都創生百人委員会世話人会

代表 梅原 猛 国際日本文化研究センター顧問

秋山 宏 日本大学教授・日本建築学会前会長

上村多恵子 京都経済同友会常任幹事

岡崎甚幸 武庫川女子大学教授・京都大学名誉教授

片岡仁左衛門 歌舞伎俳優

高階秀爾 京都造形芸術大学大学院長・東京大学名誉教授

豊田章一郎 トヨタ自動車株式会社名誉会長

中西 進 京都市立芸術大学長

西島安則 京都市産業技術研究所長・元京都大学総長

芳賀 徹 京都造形芸術大学学長・東京大学名誉教授

村井康彦 京都市美術館長

村上周三 日本建築学会会長

村田純一 京都商工会議所会頭

山本富士子 女優

冷泉貴実子 財団法人冷泉家時雨亭文庫事務局長